

古きのおいおい

金屋小・2 四木 圭悟

「おばあちゃん、おたん生日おめでとう。」

今年、千ばのおばあちゃんは六九さいのたん生日です。一年早くみんなあで古きのおいおいをすることにしました。

古きというのは「人生七十古来まれなり」

ということばで、七十さいを元気でむかえられたおいおいのことです。むかしは七十さいまで生きる人は少なかったそうです。

たん生日の前日、メッセーじカードのじゅんぴをしました。何を書いたらよいのかまよったので、六年生のお兄ちゃんの手紙をさんこうにして「いつもありがとうございます。」と書きました。かわいしいシールもはって、すてきなメッセーじカードができました。

おいおいの食じ会はホテルの二十四かいのステーキやさんでした。海とサッカー場が見えてけしきがとてもよかったです。ぼくが

「おばあちゃん、おたん生日おめでとう。かんぱい！」

と言ったたん生日会がはじまりました。

目の前でコックさんがやさいや、お肉をやいてくれました。肉をタレにつけて、ごはんにのせて食べたらいしかったです。

おばあちゃんへのメッセーじカードはいいところが、花たばはお兄ちゃんが、むらさきの頭きんとちゃんちゃんこは妹とぼくがわたしました。おばあちゃんは

「まあ、ありがとう。」

と言ったうれしそうでした。

おばあちゃんはジムでトレーニングをしたり、小さいころからの

ゆめだったじょう馬をしたりして元氣いっぱいです。

「つぎは八十八さいのおいおいをしてね。」

とおばあちゃんは言っていました。そのとき、ぼくは二十六さいです。しょうらい、りく上自えいたいいいんになって、かっこいいすがたをおばあちゃんに見せたいです。それまでおばあちゃん、ずっと元氣でいてね。